銅・アルミ市況見通し

8月

橋本アルミ取締役

橋本 健一郎氏レポート

銅

6月の伸銅品生産（速報値）は、前年同月比で0・3%減の6万8820㌧で、6カ月連続のマイナスだった。1年前の実績を上回ったのは、14品目中7品目だった

6月の銅電線出荷量は同4・8%増の5万5500㌧で、うち国内が同2・6%減、輸出が同285・3%増だった。

銅輸出は、電気銅が同25・2%増の5万3375㌧、銅スクラップが同19・2%減の3万1021㌧。銅輸出はスクラップが内需堅調に伴い減少した。

銅輸入は、電気銅が同43%増の708㌧、銅スクラップが同51・1%増の1万3441㌧だった。

銅輸入は、内需の堅調とLME銅価格の暴落による割安感で、増加した。

銅スクラップ景況予想

電気銅建値は7月月初の117万円から105万円（現在は111万円）に急落したこと。前月に続きコロナによる生産減に伴うスクラップ発生減で、出物が無く在庫薄となっている。

需要面では上海ロックダウンによる部品調達の遅れに伴い、自動車生産および販売は大幅な減少傾向となっている。伸銅品の需要は、一部品目でリモートワークに伴い減少しているが、全体としては旺盛な状況。

ただ、米高官の台湾訪問による米中関係悪化への警戒感から、買い控えが起こる可能性もある。

LME銅・為替予想

今月は「米欧の金融政策」「米中関係の悪化」に左右される。

前者は、引き締め一辺倒であったFRB（連邦準備理事会）がここ最近の経済指標からやや中立にシフトしてとの見解もある。ただ、次回はまだ利上げ幅0・75%を維持するのではないかと予想している。

後者は、ペロシ米下院議長（米大統領の継承順位2位の下院議長）の台湾訪問に伴い、米中関係の悪化が懸念される。下院議長による台湾訪問は25年ぶりとなる。ペロシ下院議長は、米国の長年の政策である「一つの中国政策」を損なうものではないと表明。「この訪問が危機や紛争に拍車をかける理由にはならない」とし、米国が中国の脅威や好戦的なレトリックに脅かされることはないと述べた。ただ中国は訪問自体に反発、台湾向け砂輸出を停止するなどしている。ただ、これ以上の悪化は招かないと見ている。

アルミ

6月のアルミ圧延品生産量（板類・押出類合計）は同5・1%減の15万9531㌧で3カ月連続のマイナスだった。生産量は板類が同4・8%減の9万9383㌧、押出類が同5・7%減の6万148㌧だった。

6月のアルミニウム二次合金・同合金地金生産は同18・7%減の5万8788㌧（10カ月連続の減少）。出荷は同17・3%減の6万414㌧（10カ月連続の減少）だった。

輸出はアルミ新地金が同22・5%減の93㌧、アルミ二次合金が同23・7%減の1681㌧、アルミスクラップが同37・2%増の3万9388㌧、アルミ缶が同43・1%減の5122㌧。

アルミ輸出は、自動車生産の減少や円安を受けてアルミスクラップが増加した。

輸入はアルミ新地金が同15・1%減の13万712㌧、アルミ二次合金が同4・6%増の9万2040㌧、アルミスクラップが同9・8%増の685㌧、アルミ合金スクラップが同65%増の7480㌧だった。

アルミ輸入は、円安による割高感から新地金以外は増加した。

アルミスクラップ景況予想

欧米の金融引き締め策に伴い、LME価格は2400～2500㌦と下落した。ただ、自動車生産減により売りにくく、流通（一次問屋）の入荷も少ない見通し。

需要面は、上海のロックダウン解除後も、サプライチェーンが不安定な状態。このため自動車生産、住宅着工ともに振るわず、需給は緩んだままだと見ている。

8月銅市況予想レンジ

LME銅セツルメント	7000～9000㌦	横ばい
電気銅建値	99～129万円	横ばい
為替（1㌦）	135～139円（1カ月間TTM）	円高

8月アルミ市況予想レンジ

LMEアルミ現物後場買い	2200～2500㌦（現物後場買い）	横ばい
スクラップ	0円～マイナス5円（前月最終価格より）	横ばい